

## 土台パッキング工法(土台パッキング25-R・20)

## ■設計施工時の注意

## ⚠注意 使用上の注意

- 基礎は住宅金融支援機構監修の共通仕様書に定められた基礎と同等以上の布基礎またはべた基礎(立ち上がり有するもの)としてください。
- 土台パッキング工法は防腐、防蟻に有効な工法ではありますが、建築基準法や住宅金融支援機構監修の共通仕様書に定められた木部の防腐、防蟻措置を逃れるものではありません。必ず木部の防腐、防蟻措置を行ってください。
- 「フクビ土台パッキング標準仕様書」を参考に木材のめり込み設計荷重が許容応力度を超えないようご配慮ください。また、土台は以下のいずれかをご使用ください。
  - イ) 日本工業規格(JIS)に定める土台用加圧式防腐処理木材
  - ロ) 日本農林規格(JAS)に定める保存処理木材(K1を除く)
  - ハ) 認証木質建材(AQマーク表示品)として認証された保存処理木材(1種)
  - ニ) 上記イ)～ハ)と同等以上の防腐性能をもつと認められた木材
- 土台パッキング工法では通常、床下換気孔として設ける布基礎の欠損部は必要ありませんが、外周部以外の布基礎には点検用の通路としての人通口部を設けてください。
- 本説明書は平屋および2階建ての住宅を想定して作成されております。3階建ての住宅に使用する場合は構造計算を行い、安全性を考慮した上でお使いください。
- 延焼のおそれのある部分では、鋼板等の不燃性水切を防火覆いとして使用してください。その他、建築主事より指示があった場合はその指示に従ってください。

## ■アンカーボルト打設位置

- アンカーボルトは、住宅金融支援機構監修の共通仕様書に基づき、以下の位置に打設してください。なお、3階建ての場合は下記によるほか、建築基準法に基づく構造耐力上の安全性を確認した上で、位置を決定してください。

## 〈軸組工法の場合〉

- イ) 筋かいを設けた耐力壁の部分は、その両端の柱の下部にそれぞれに近接した位置。
- ロ) 構造用合板等による耐力壁の部分は、その両端の柱の下部にそれぞれに近接した位置。
- ハ) 土台切れの箇所、土台継手および仕口の上木端部。なお、当該箇所が出隅部分の場合は、できるだけ柱に近接した位置とする。
- ニ) 上記イ、ロおよびハ以外の部分は、間隔2.7mの位置。

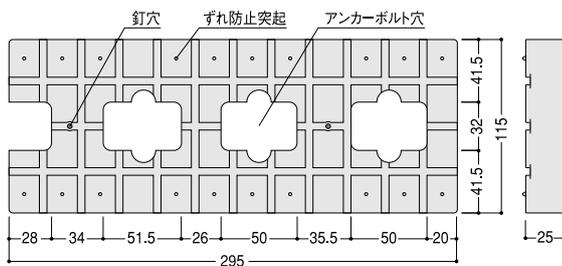
## 〈枠組壁工法の場合〉

- イ) 住宅の隅角部付近、土台の継手付近とし、その他の部分は間隔2.0m以内。
- ロ) 1階床を土間コンクリート床で構成する場合で、床に達する開口部(掃き出し窓)を設けた場合は、イの他、まぐさを取り付けたて枠の150mm内外の部分。

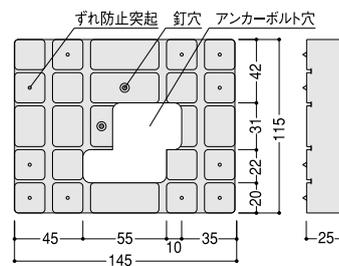
- また、土台パッキング敷設時に主要部分にアンカーボルトが打設されていない場合には、埋込みと同等の強度の得られる方法(ケミカルアンカーボルト等)にて速やかにアンカーボルトを打設してください。

## ■土台パッキング25-R 製品仕様

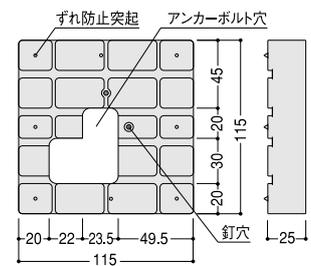
- 土台パッキング25-R  
(25×115×295mm)



- 土台パッキング25-MR  
(25×115×145mm)

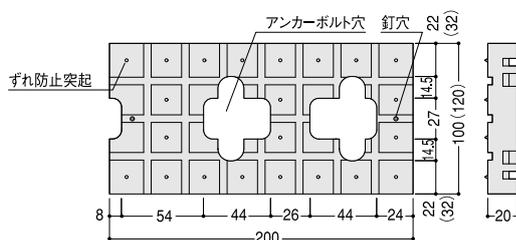


- 土台パッキング25-SR  
(25×115×115mm)

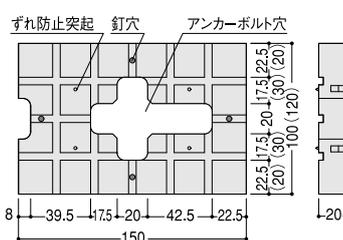


## ■土台パッキング20 製品仕様

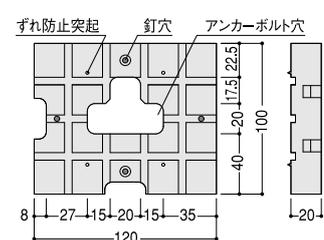
- 土台パッキング20-100  
(20×100×200mm)



- 土台パッキング20-100×150  
(20×100×150mm)



- 土台パッキング20-100×120  
(20×100×120mm)



## ■土台パッキン施工要領

1. 天端ならしモルタル施工   2. 土台パッキン25-R敷設   3. 土台取付け   4. 防鼠材取付け   5. 水切取付け

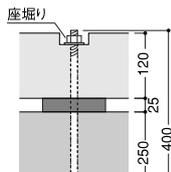


適切な位置に確実に敷設します。  
(土台パッキン25-R使用一覧表 参照)

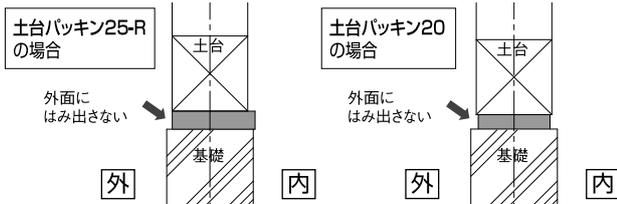


①土台パッキンの選定  
本文掲載の使用一覧表をご覧の上、より適したものをお選びください。

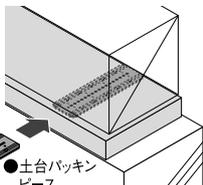
- ②アンカーボルトの打設  
●埋設位置は住宅金融支援機構監修の共通仕様書に基づいて埋設してください。  
●アンカーボルトの立ち上がり不足する場合は、長めのアンカーボルトを使用するか、土台に座堀りをして対応してください。



- ③土台パッキンの敷設  
●土台パッキンの使用一覧表に記載された敷設位置に確実に敷設してください。  
●必ず突起のある方を土台側として敷設してください。  
●有効換気面積および安全性を確保するため4m以内の最大敷込み枚数を必ず守って敷設してください。  
●防鼠材の取付けを考慮して、軸組工法の場合は土台、枠組壁工法の場合は構造用合板よりも外側にはみ出さないように敷設してください。(下図)  
●品質保持のため、切断して使用することはなるべく避けてください。



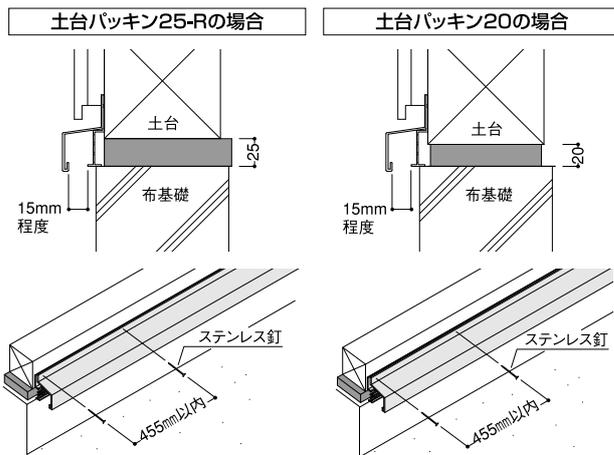
- ④土台パッキンの固定  
●付属のコンクリート釘1本以上で基礎あるいは土台へ打ち付け、必ずパッキン材を固定してください。  
●土台パッキンと土台の間に隙間がある場合は、「土台パッキンピース」を用いて調整できます。



**注意** ●ピースを重ねて使用する場合は2枚までとしてください。

●土台パッキンピース

- ⑤防鼠、水切り(別売)の取付け  
●土台を伏せた後、防鼠材、水切りをそれぞれ@455mm以内でステンレス製の釘またはビスで取付けてください。  
●水切取付けの際は換気スリットを15mm程度確保してください。



- ⑥施工後の確認  
●敷設位置、最大敷込み枚数、防鼠材、水切の納まりなどをご確認ください。  
※「同梱の施工説明書」の巻末のチェックシートをご利用ください。

### ⚠注意 使用上の注意

- 使用一覧表にない使用法を検討される際は必ず弊社までご相談ください。
- 防鼠材、水切(あるいは防鼠付水切)を必ず取付け、パッキン材と防鼠材に直接日光が当たらないようご注意ください。

### ■有効換気面積について

土台パッキン工法では、住宅金融支援機構監修の共通仕様書の規定に基づき、外部部の布基礎4m以内に300cm<sup>2</sup>以上の有効換気面積を確保する事を基本としております。設計審査申請時に有効換気面積の計算を指示された場合は、下表を参考に、最大敷設枚数が規定を越えていないことをご提示ください。

$$\text{有効換気面積 (cm}^2\text{/4m)} = \frac{\{\text{基礎外周長 (cm)} - \text{外周のパッキン数 (個)} \times \text{パッキン長さ (cm)}\} \times \text{パッキン厚 (cm)}}{\text{基礎外周長 (m)} \div 4 \text{ (m)}} \times \text{防鼠材開口率 (*74.09\%)}$$

※土台パッキン防鼠材使用の場合

### ■各種土台パッキンの4m以内の最大敷設枚数とその時の有効換気面積

土台パッキン	巾×長さ×厚 (mm)	最大敷込み数 (枚/4m)	残りの開口面積 (cm <sup>2</sup> /4m)	防鼠材開口率を考慮した有効換気面積 (cm <sup>2</sup> /4m)	
25-R	115×295×25	8	410	303	
25-MR	横置き	115×145×25	16	420	311
	縦置き	145×115×25	20	425	315
25-SR	115×115×25	20	420	315	
20-100	100×200×20	8	480	355	
20-120	120×200×20	8	480	355	
20-100×150	横置き	100×150×20	11	470	348
	縦置き	150×100×20	17	460	340
20-120×150	横置き	120×150×20	11	470	348
	縦置き	150×120×20	14	464	343
20-100×120	横置き	100×120×20	14	464	343
	縦置き	120×100×20	17	460	340

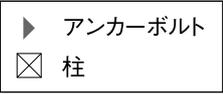
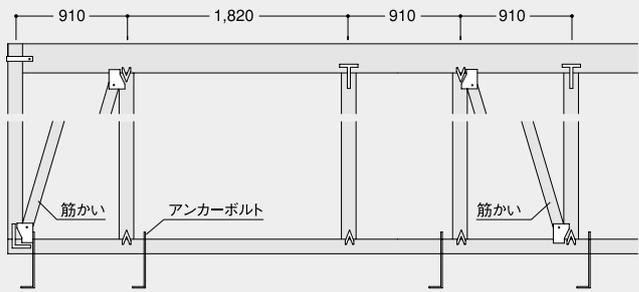
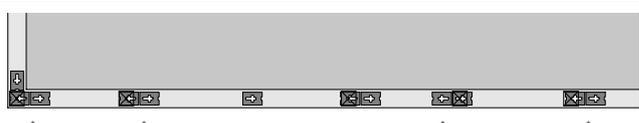
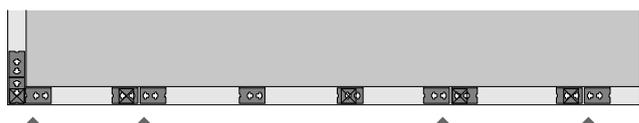
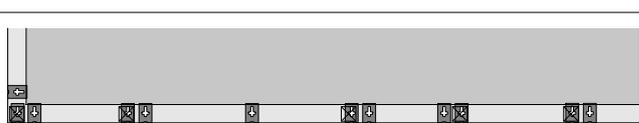
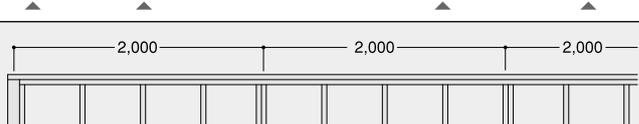
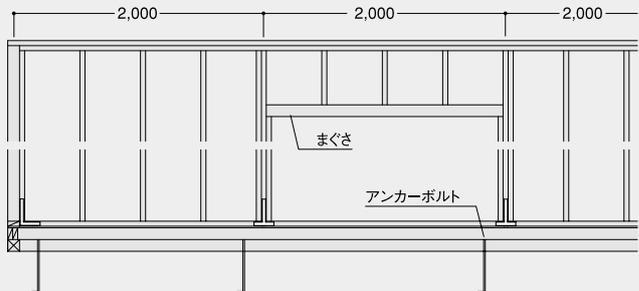
## ■土台パッキン25-R 使用一覧表

**注意** ●使用一覧表を照合、確認の上、「敷き込み箇所」欄の柱下の敷設枚数に注意して施工してください。

在来軸組工法	使用する土台パッキン	使用する土台寸法	4m以内の最大敷設数	敷設例	敷き込み箇所
				<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ アンカーボルト</li> <li>☒ 柱</li> </ul>	
	25-R	105mm	8枚まで		
		120mm			
		135mm			
	25-MR (縦置き)	150mm	20枚まで		
枠組壁工法(2x4工法)	使用する土台パッキン	使用する土台寸法	4m以内の最大敷設数	敷設例	敷き込み箇所
				<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ アンカーボルト</li> <li>▮ たて枠</li> </ul>	
	25-SR	404材	20枚まで		
	25-MR (縦置き)	406材	20枚まで		

## ■土台パッキン20 使用一覧表

- ⚠ 注意**
- 使用一覧表を照合、確認の上、「敷き込み箇所」欄の柱下の敷設枚数に注意して施工してください。
  - 土台パッキン20-100 (120) の場合、予め図面上にて必要な有効換気面積をご確認ください。

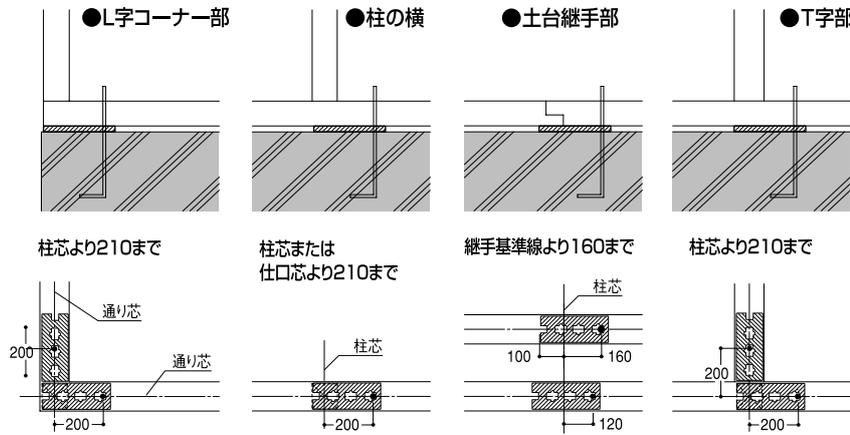
使用する土台パッキン	使用する土台寸法	4m以内の最大敷設数	敷設例		
			敷き込み箇所		
在来軸組工法	20-100	105mm	8枚まで	①柱下 ②アンカーボルト部 ③仕口の下 ④土台継ぎ手の下、土台切れ、基礎切れ ⑤その他は1m以内	
	20-100×150 (横置き)		11枚まで	①柱下に2枚 ②アンカーボルト部 ③仕口の下 ④土台継ぎ手の下、土台切れ、基礎切れ ⑤その他は1m以内	
	20-120	120mm	8枚まで	①柱下 ②アンカーボルト部 ③仕口の下 ④土台継ぎ手の下、土台切れ、基礎切れ ⑤その他は1m以内	
	20-120×150 (横置き)		11枚まで	①柱下に2枚 ②アンカーボルト部 ③仕口の下 ④土台継ぎ手の下、土台切れ、基礎切れ ⑤その他は1m以内	
	20-120	135mm	8枚まで	①柱下に2枚 ②アンカーボルト部 ③仕口の下 ④土台継ぎ手の下、土台切れ、基礎切れ ⑤その他は1m以内	
	20-120×150 (横置き)		11枚まで	①柱下に2枚 ②アンカーボルト部 ③仕口の下 ④土台継ぎ手の下、土台切れ、基礎切れ ⑤その他は1m以内	
	20-100×150 (縦置き)	150mm	17枚まで	①柱下に2枚 (柱が150角の場合は3枚) ②アンカーボルト部 ③仕口の下 ④土台継ぎ手の下、土台切れ、基礎切れ ⑤その他は1m以内	
枠組壁工法 (2×4工法)	使用する土台パッキン	使用する土台寸法	4m以内の最大敷設数	敷設例	
				敷き込み箇所	
	20-100×120 (横置き)	404材	14枚まで	①たて枠下 (3~4本たて枠、柱下には2枚) ②アンカーボルト部 ③土台継ぎ手の下、土台切れ、基礎切れ ④その他は標準50cm、最大75cm以内	
20-100×150 (縦置き)	406材	17枚まで	①たて枠下 (2~3本たて枠、柱下には2枚、4本たて枠、606柱下には3枚) ②アンカーボルト部 ③土台継ぎ手の下、土台切れ、基礎切れ ④その他は標準50cm、最大75cm以内		

## ■土台パッキン工法(土台パッキン25-R・20)敷設一覧

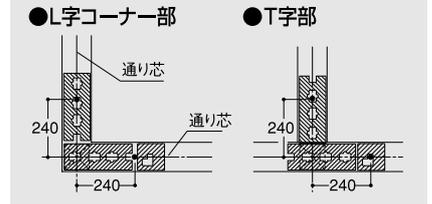
### ■土台パッキン25-R 敷設例

#### ■土台パッキン25-R アンカーボルト周辺

● アンカーボルト □ 柱

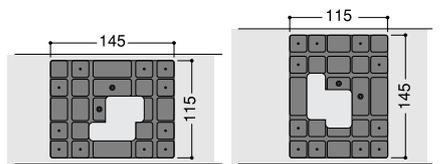


#### ■特殊な納まり例 アンカーボルト部に25-SRを使用



※土台パッキンには横置き、縦置き兼用のものがあります。本文掲載の使用一覧表に記載された敷設箇所に確実に敷設してください。

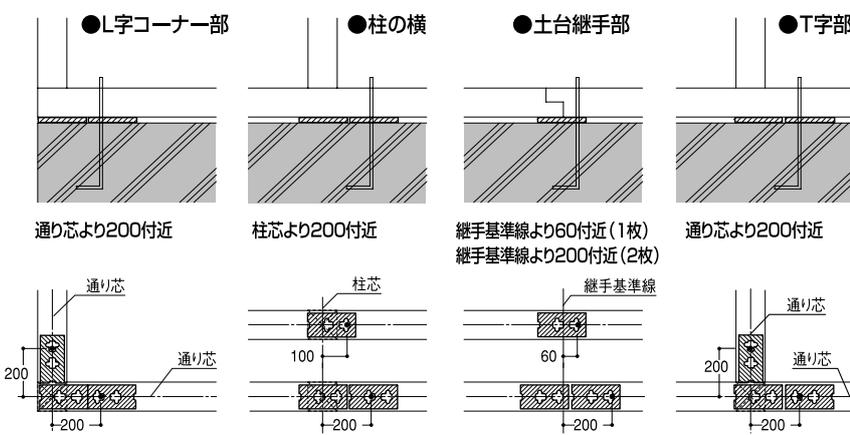
#### ●土台パッキン 25-MR 横置き ●土台パッキン 25-MR 縦置き



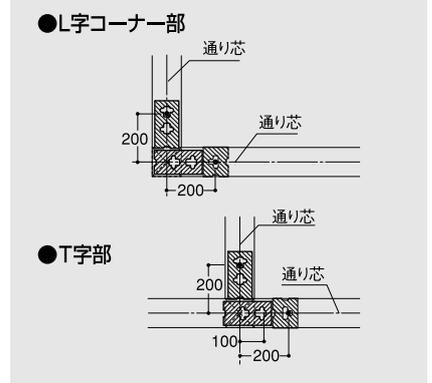
### ■土台パッキン20 敷設例

#### ■土台パッキン20-120(100) アンカーボルト周辺

● アンカーボルト □ 柱



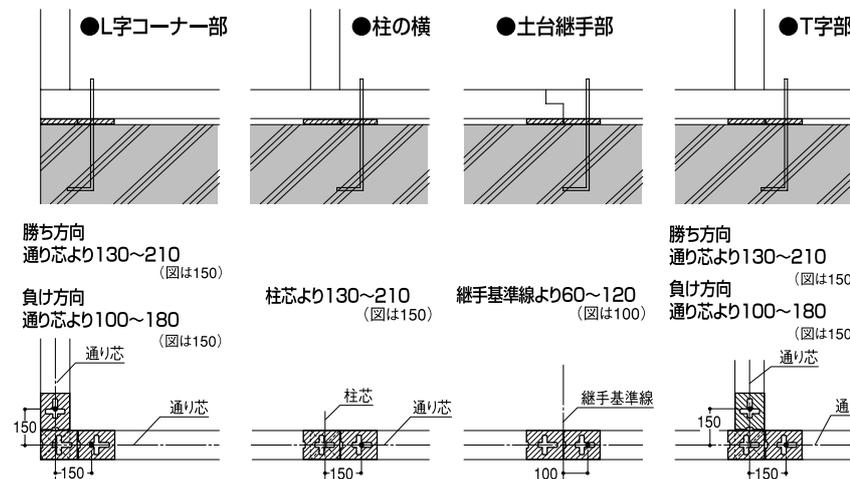
#### ■特殊な納まり例 アンカーボルト部に20-100×120を使用



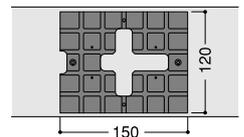
※土台パッキンには横置き、縦置き兼用のものがあります。本文掲載の使用一覧表に記載された敷設箇所に確実に敷設してください。

#### ■土台パッキン20-120(100)×150 アンカーボルト周辺

● アンカーボルト □ 柱



#### ●土台パッキン 20-120×150 横置き



#### ●土台パッキン 20-100×150 縦置き

